

A world map in dark blue with white flight paths connecting various continents. In the center of the map is a large orange circular logo containing a stylized Japanese character. The background is a light blue gradient.

証券コード：9066

2018年5月25日

株式会社日新
2018年3月期 決算説明会

5期連続増益で過去最高益を達成
～今期は成長に向けた土台固め～

目次

I.	中期経営計画の進捗状況	P. 3
II.	2018年3月期 実績	P. 7
III.	2019年3月期 計画	P.13
IV.	(特集)今後の設備投資計画	P.21



中期経営計画の進捗状況

重点施策の推進で
中期経営計画の早期達成をめざす



第6次中期経営計画の位置づけ

- 将来を見据えた新たな課題への挑戦 海外事業の更なる拡大



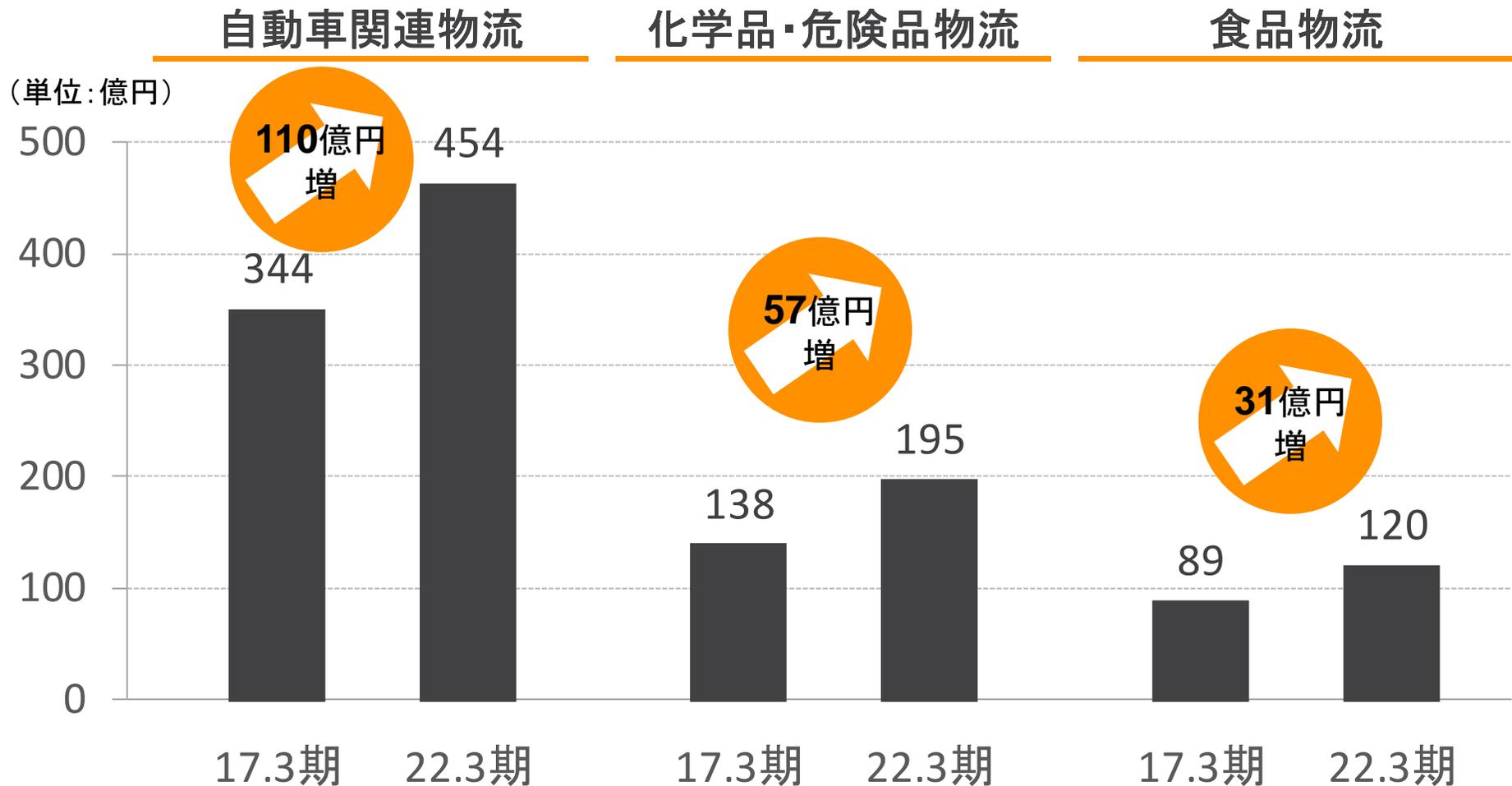
第6次中期経営計画の概要

基本方針	「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」 ~世界最高品質の物流企業への更なる進化~
期間	2017年4月~2022年3月(5年間)
重点施策	<ul style="list-style-type: none">● 重点分野(自動車関連、化学品・危険品、食品物流)● 国内事業の収益力向上<ul style="list-style-type: none">● 物流施設の再編● 業務効率化の追求● 物流事業・旅行事業の連携強化● AIを活用した提案型営業の推進● グループ経営基盤の強化<ul style="list-style-type: none">● ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底● 人材の確保と育成● 資金の効率化などの財務体質の強化



第6次中期経営計画 重点分野別の売上高目標値

- 自動車関連に加え、成長分野の化学品・危険品、食品の拡大をめざす





2018年3月期 実績

過去最高益を達成
日本・アジア物流、旅行が牽引



2018年3月期決算 サマリー

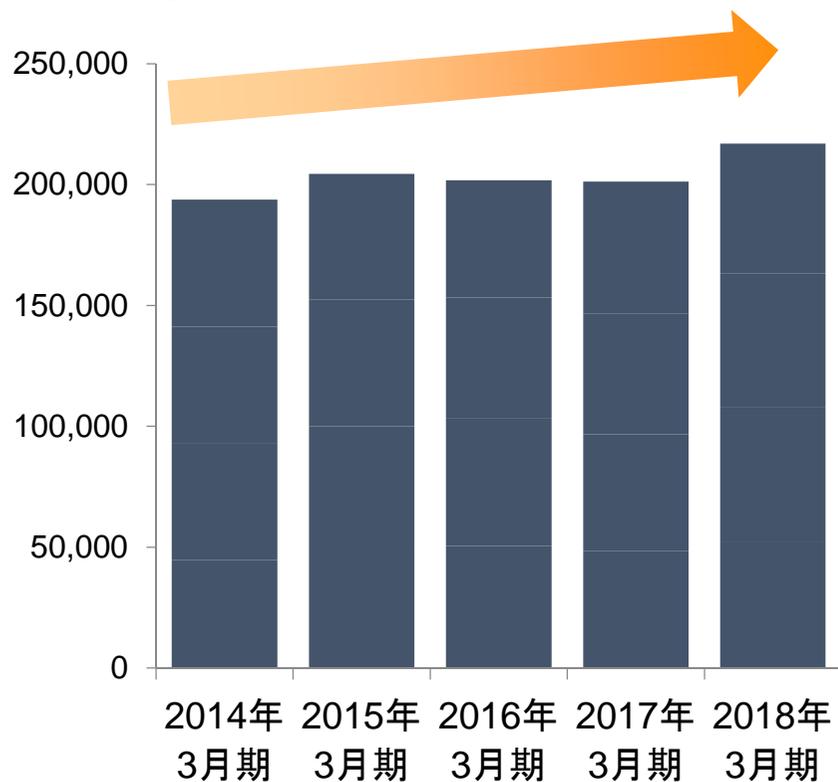
	2017年 3月期	2018年 3月期			
	実績	修正計画 (10月30日)	実績	計画比(%)	前期比(%)
(単位:百万円)					
売上高	201,209	213,000	216,924	101.8%	107.8%
営業利益	5,607	6,150	6,389	103.8%	113.9%
経常利益	6,266	6,500	6,869	105.6%	109.6%
当期純利益	4,457 ※	5,200 ※	5,210 ※	100.1%	116.9%

業績推移

- 増益基調を継続 トップラインに左右されず、利益を確実に稼ぐ体質に転換

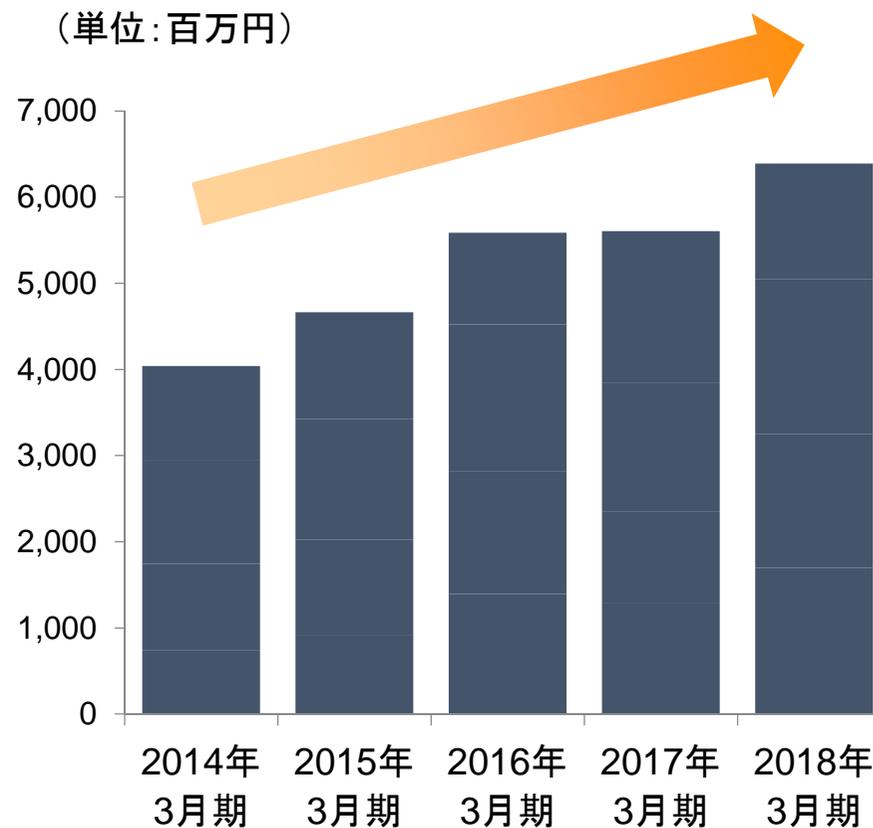
売上高

(単位:百万円)



営業利益

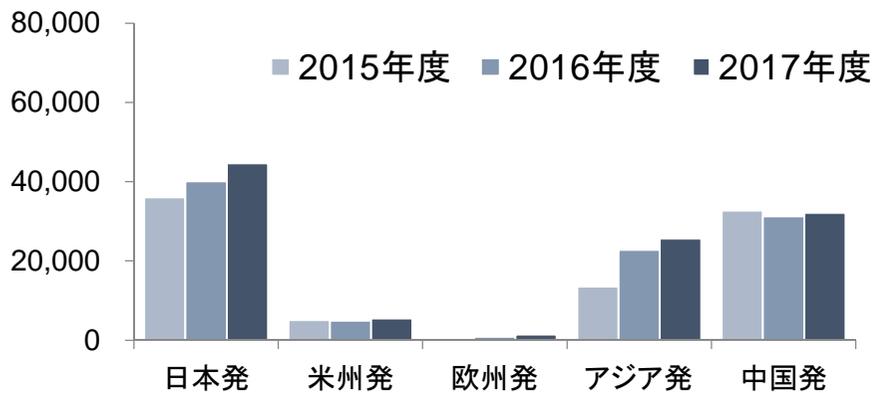
(単位:百万円)



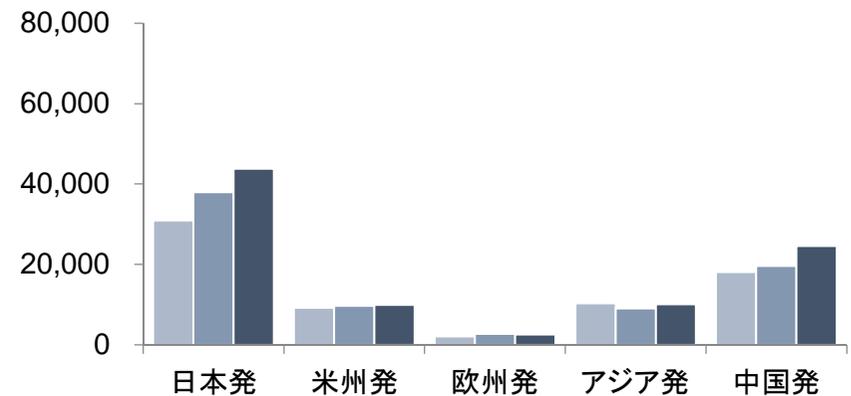
海上・航空の3カ年物量推移

■ 日本・アジア発着貨物の荷動きが活発に推移

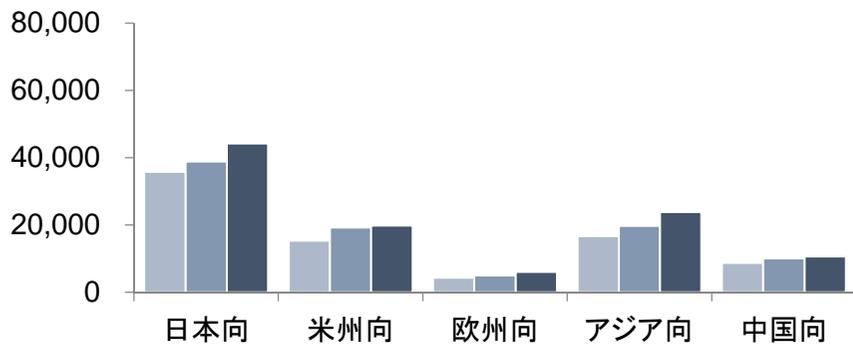
海上 輸出 (TEU)



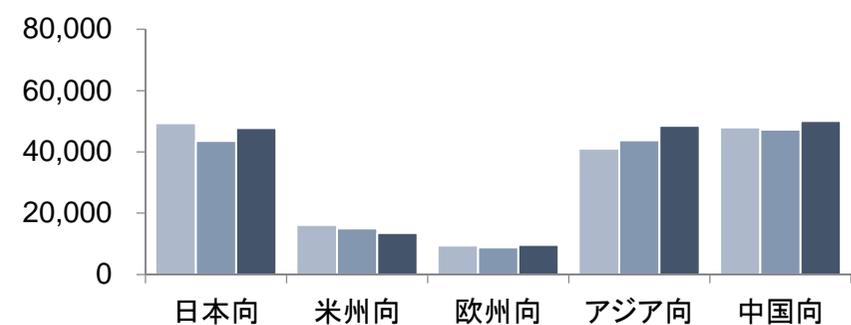
航空 輸出 (TON)



海上 輸入 (TEU)



航空 輸入 (件)

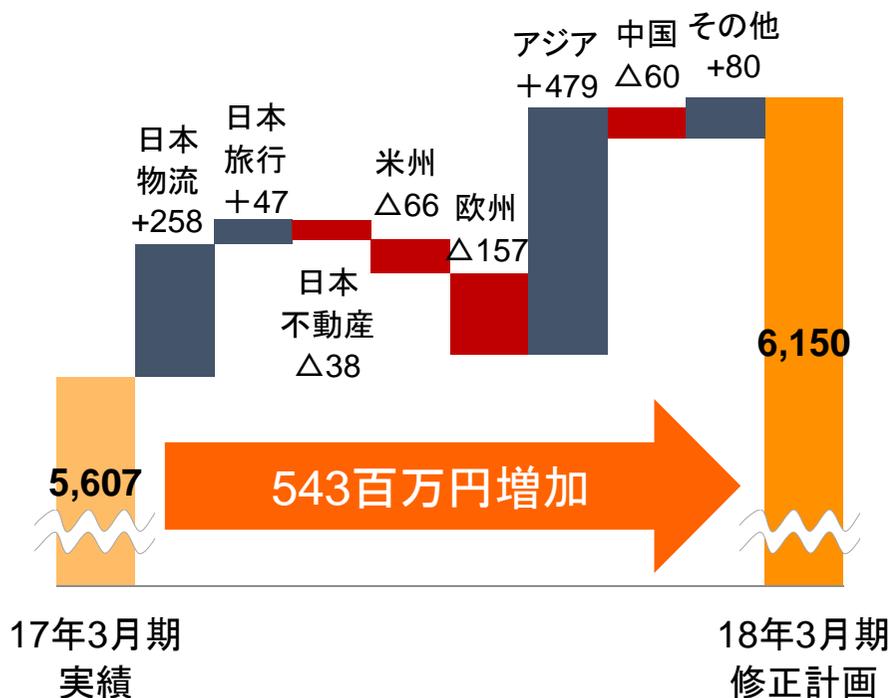


2018年3月期実績 営業利益(前年比)

■ 修正計画を上回る着地 特に日本物流が好調に推移

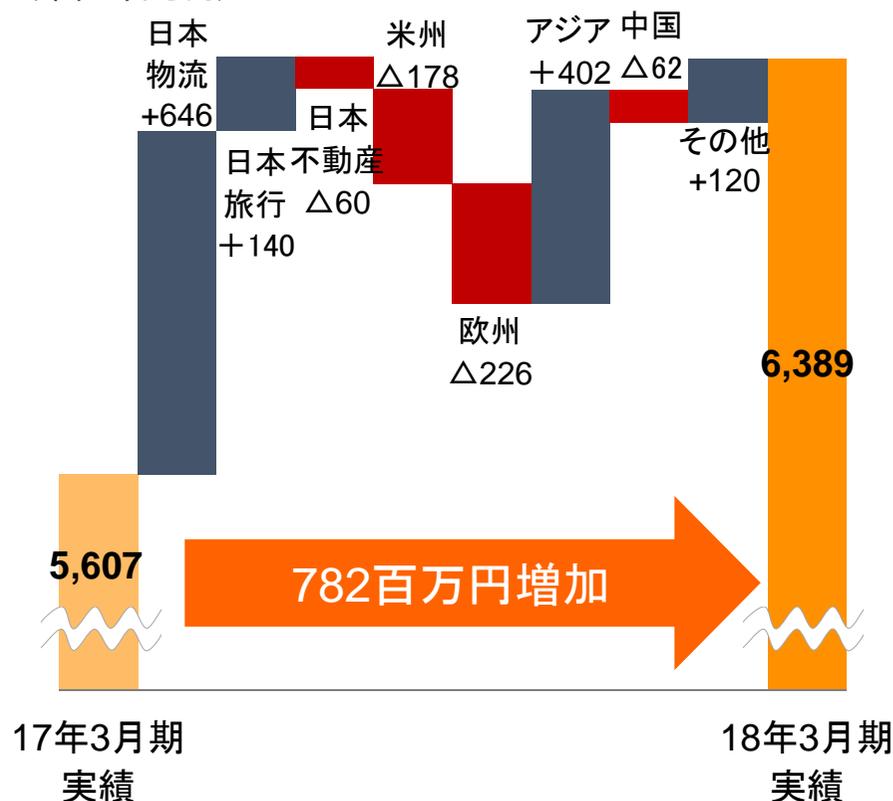
修正計画(10/30)

(単位:百万円)



2018年3月実績

(単位:百万円)



利益増減要因の振り返り

■ 日本・アジア物流、旅行が牽引

	日本	航空輸出入貨物増加（電子部品、食品等） 海上輸出入貨物増加（化学品、食品等） ターミナルの取扱い本船増加 企業の出張需要増加で業務渡航取扱い増加
	米州	米国航空輸出増加も、メキシコでの荷動き低迷
	欧州	新規開拓進めるも、倉庫の落ち込みカバーに至らず
	アジア	アセアン域内での自動車関連物流が活発化
	中国	物量増加するも運賃上昇



2019年3月期 計画

営業拡大と土台固めを進め
中期経営計画の達成をめざす



2019年3月期の方向性

2019年3月期は“攻め”も“守り”も固める年とする

攻め

収益の糧となる投資の種まきを実行

今後3~5年間先を見据えた
高付加価値物流への投資の実行

守り

経営効率化の追求

RPA(ロボットによる業務自動化)の導入
業務フローの見直しによる業務量削減と
ITのグローバル標準による効率化推進

2019年3月期 通期計画 サマリー

- 取扱物量は好調を持続、売上も順調に増加する見通し
- 当期純利益の減少は、前々期・前期計上の特別利益(移転補償金)の反動

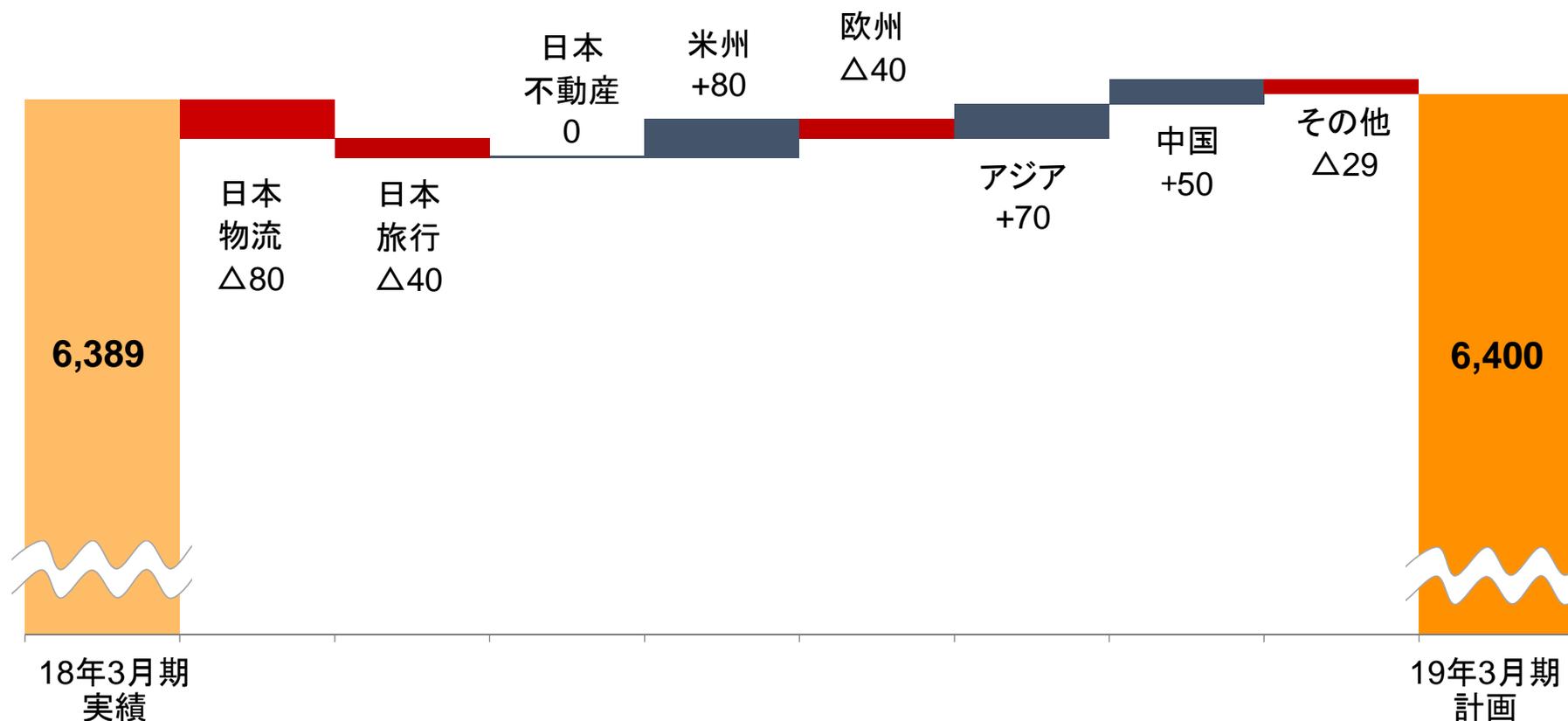
(単位:百万円)	2017.3期 実績	2018.3期 実績	2019.3期 計画	前期比(%)	前期比(額)
売上高	201,209	216,924	222,000	102.3%	5,076
営業利益	5,607	6,389	6,400	100.2%	11
営業利益率	2.8%	2.9%	2.9%	-	-
経常利益	6,266	6,869	6,900	100.4%	31
当期純利益	4,457 ※	5,210 ※	4,300	82.5%	▲910

※ 倉庫移転補償金含む

2019年3月期地域別通期計画 営業利益

- 営業利益変動に大きな要因はなく、中計達成に向けての土台固めの年とする

(単位:百万円)



※「その他」は、連結処理等

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

2019年3月期 収益増減要因

日本	人件費、ITの減価償却、施設大型修繕などコスト負担増 集荷活動の強化と業務効率化進める
米州	北米は家電DC、梱包などロジスティクス業務拡大 メキシコ事業は底打ち
欧州	ドイツ倉庫取扱い縮小 フランス、ベルギーはIATA免許取得で航空貨物取扱い拡大図る
アジア	好調続くアセアン域内の自動車関連貨物の一層の取込み
中国	国内DC業務拡大(eコマース含む) 電子部品取扱いも堅調に推移

2019年3月期の為替想定レート:

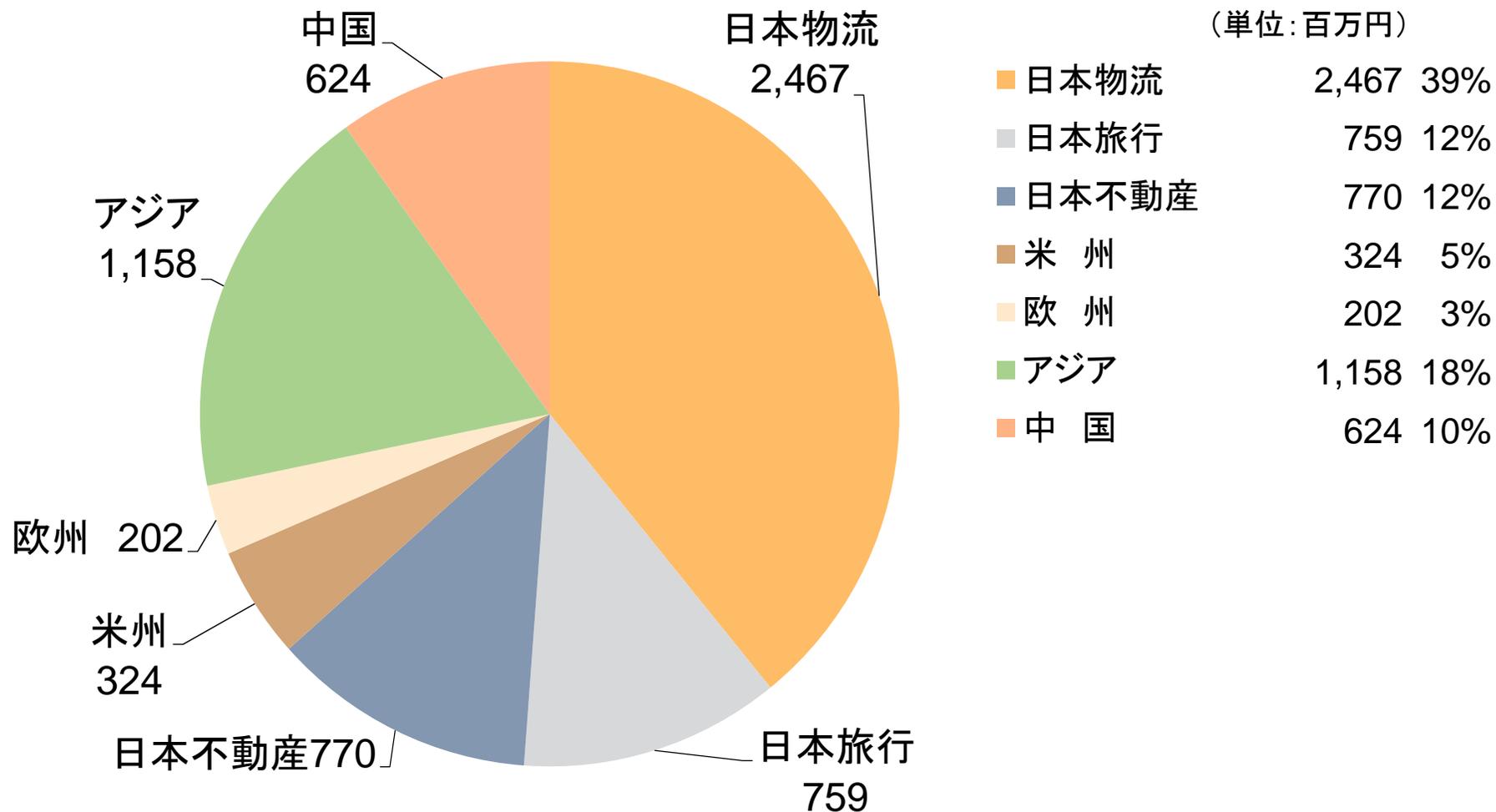
USD=¥109.35、EUR=¥132.39、GBP=¥152.17、THB=¥3.45、CNY=¥17.29

【為替感応度】

米ドル、ユーロは1円の変動で、売上高約560百万円、営業利益約20百万円の影響

セグメント、地域別営業利益シェア

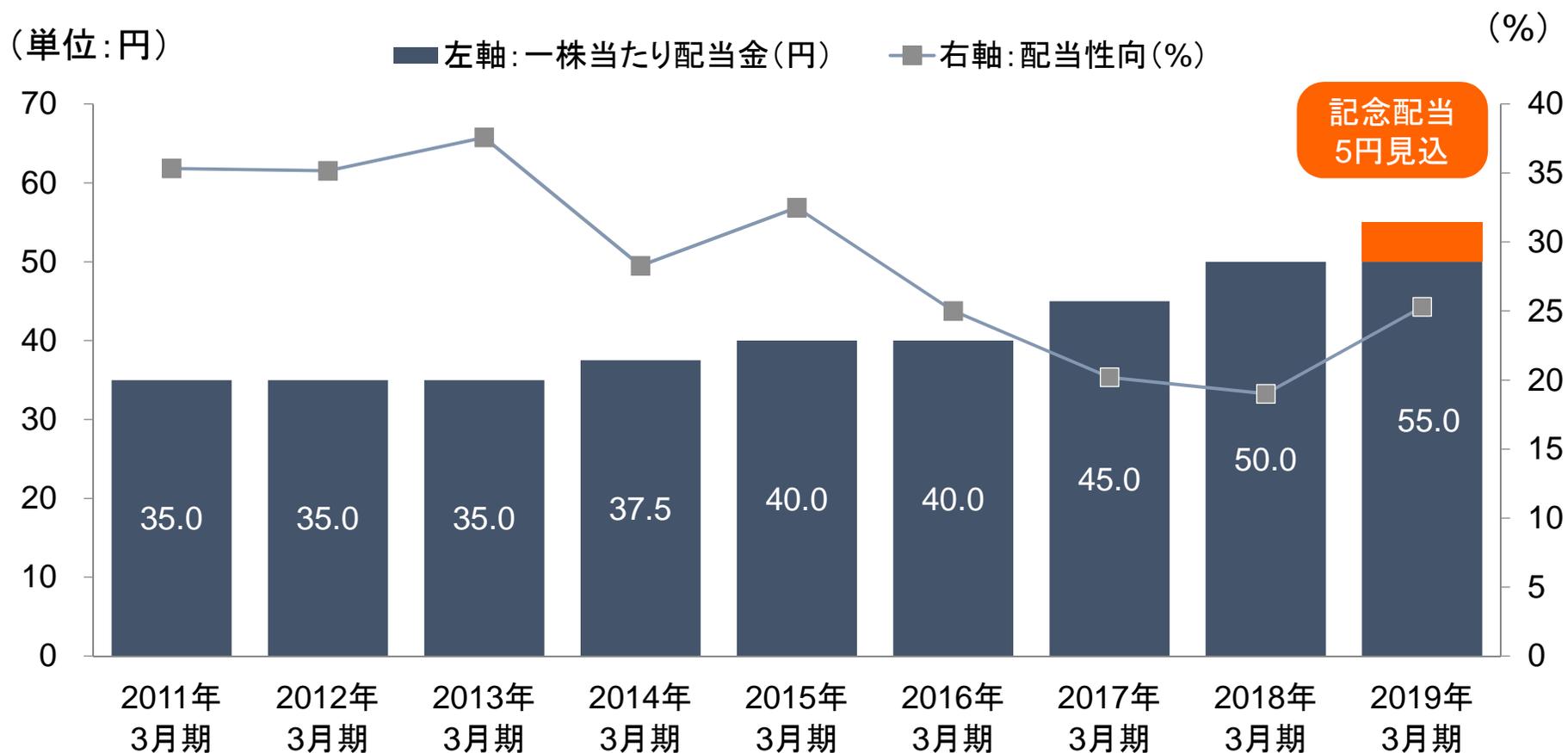
【2019年3月期 計画値】



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値(連結修正前)

配当政策

- 今期は創立80周年記念配当5円を増配し、55円を見込む



(注)2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、株式併合を考慮した金額を記載

本日のまとめ

2018年3月期
実績

過去最高益を達成
日本・アジア物流、旅行が牽引

2019年3月期
計画

堅調な世界経済を背景に
更なる営業拡大と土台固めを進め
中期経営計画の達成をめざす



特集 今後の設備投資計画

成長分野への戦略的投資加速



日新の営業倉庫面積

(単位: m ²)	自社倉庫	賃借倉庫	合計
日本	286,223	309,482	595,705
米州	65,840	96,086	161,926
欧州	6,000	96,775	102,775
アジア	54,276	107,769	162,045
中国	9,616	147,595	157,211
合計	421,955	757,707	1,179,662

第5次中計での投資と今期収益への貢献

- 第5次での取組みが英国、タイでは収益に大きく貢献
- 国内は第6次での収益化をめざす

項目	地域	第5次のテーマ	第5次での具体的取組み	第6次 初年度 収益貢献
国内事業の再構築		拠点再構築	山下地区、神奈川埠頭倉庫、大井事業所再開発着手	-
			福岡市アイランドシティ港湾用地取得	-
海外事業の 強化	米州	自動車の強化	米国倉庫新規開設(オハイオ、カリフォルニア)	△
			メキシコ航空事業自営化(グアダラハラ、メキシコシティ)	△
	欧州	基盤の整備	オランダ拠点開設(ティルブルグ)	○
			英国自動車部品ミルクラン業務開始(スウィンドン)	◎
	アジア	拠点の拡充	タイ拠点拡充(プラチンブリ)	◎
			インド拠点拡充(アーメダバード)	△
中国	収益の拡大	国内市場向け配送センター業務の拡大 (上海・北京・天津・昆山)	○	

自動車関連については、アジアを中心に拡張の余地あり。
第2、第3の柱となる化学品・危険品、食品関連、並びに国内での投資計画を実行に移す。

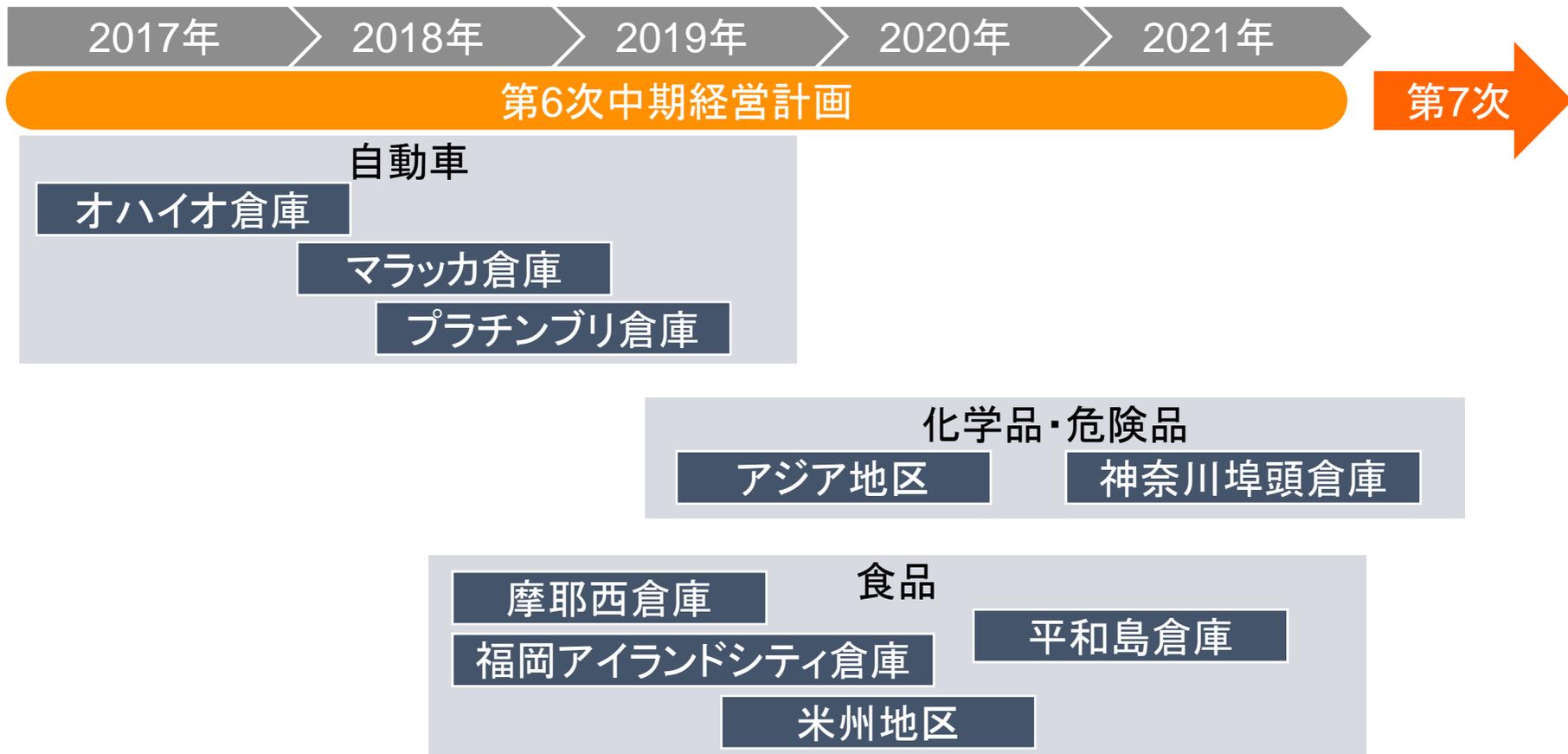
重点3分野エリア戦略と投資

■ 中期経営計画の当初目標に沿い実行

	自動車関連物流	化学品・危険品物流	食品物流
日本	新規顧客開拓	危険品物流基地の運営	冷凍・冷蔵倉庫運営
米州	オハイオ 自社倉庫新設	危険品事業への参入	冷凍・冷蔵倉庫開設 検討中
欧州	非日系部品メーカーの 新規開拓	—	食材の輸出入拡大
アジア	タイ 倉庫拡充 マレーシア 新倉庫建設	危険品倉庫開設 検討中	食品物流網の構築
中国	グローバルアカウント 各社への重点営業	—	食品物流網の構築

第6次中計期間中の投資計画

- 自動車関連への投資を先行し、他の重点分野への投資に繋げる



今年度の投資計画

- 国内では、少子高齢化や女性の社会進出などで冷凍食品の消費が増加
環境配慮型施設で社会的課題にも応える



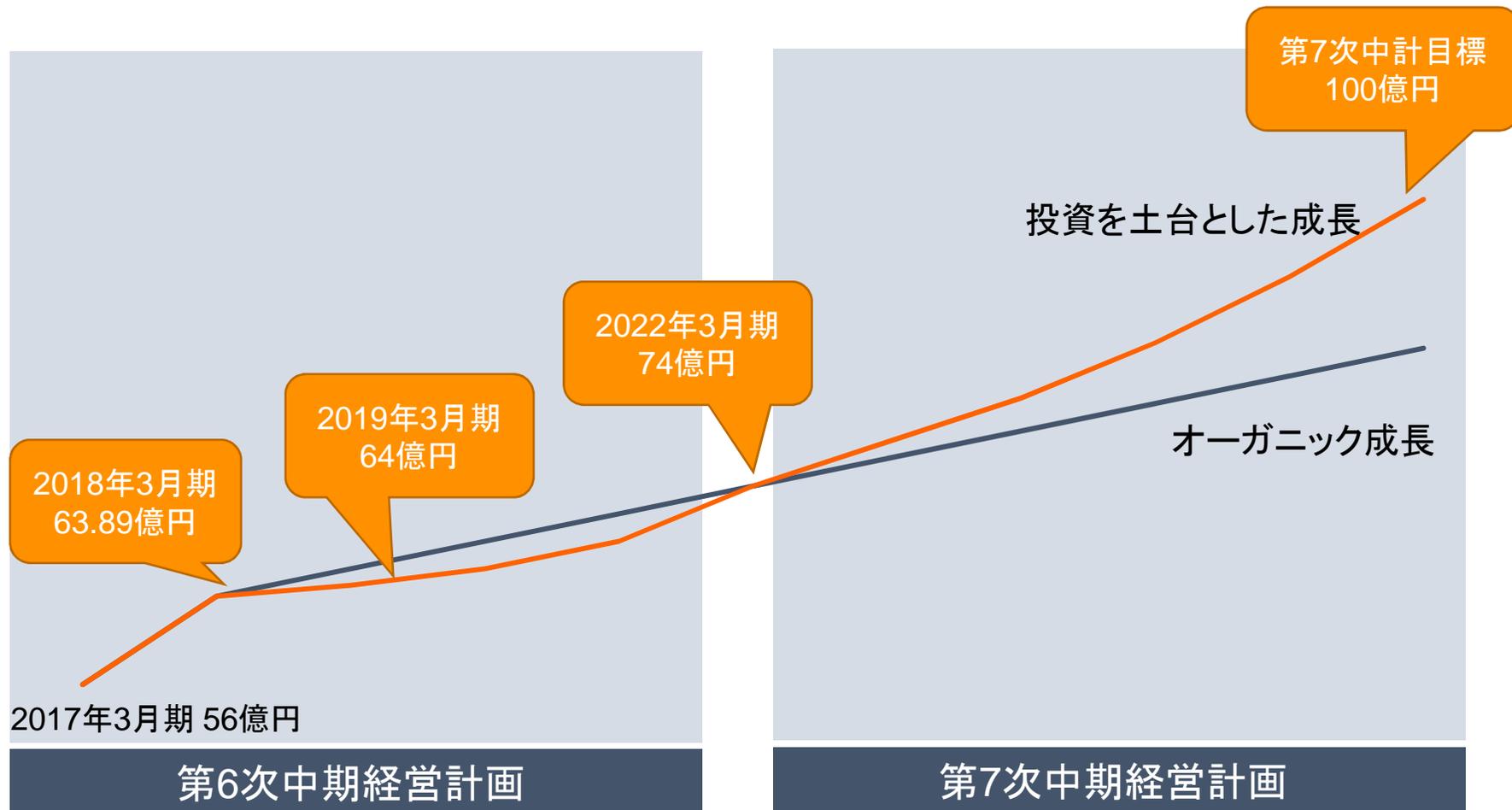
- 摩耶西冷凍倉庫
 - 2019年9月竣工予定
 - 冷蔵収容能力12,500冷蔵トッ大手食品メーカー、チェーンスーパーなど、安定顧客からの需要が旺盛。全自動倉庫で従来型倉庫の3倍の作業効率を実現。



- 福岡アイランドシティ倉庫
 - 2019年7月竣工予定
 - 延床面積7,967坪、5階建てCO2削減をめざした倉庫。港・空港に近く、アジアとの輸出入の基地とするほか、国内では九州エリアのDCとしても活用。

中長期の成長イメージ

- 第6次中計期間での投資を土台に、次期中計で営業利益100億円をめざす



業績計画に関する注意事項

本資料には、当社グループの将来における売上高・利益等の業績に係る計画や見通しが含まれております。

これらは、当社グループが現時点にて把握、入手可能な情報からの判断および想定に基づく見通しを前提としており、実際の業績等は大きく異なる場合があることを予めご了承下さい。